

西会津・御前ヶ遊窟

T野

- ◆日程：2025 年 11 月 8 日
- ◆山域：会越
- ◆メンバー：7 名（T野・M浦・T村m・A原・H多・S口・T村e）
- ◆形態：ハイグレードハイキング（プチバリ）
- ◆ルート：御前ヶ遊窟



今年は 10 月の天候が不順で、週末はいつも悪天候。

叶うなら錦絵のような紅葉を見てみたい！！

しかし、期待をかけた今週も日曜日は雨予報。そうすると、もう土曜日に賭けるしかない。御前ヶ遊窟は 2019 年に一度訪れているが、岩峰群に素晴らしい錦秋の世界が広がる山！！そして、低山ながらルーフアイが難しいハイグレードな山でもある。

今回は、上部でルーフアイを間違え、徐々に傾斜が増す高度感抜群のスラブに緊張感あふれる登攀を余儀なくされた。今回はどこで間違えたのか、おさらいも兼ねての訪問である。

御前ヶ遊窟の経験者は今回、僕とA原さんだけ。他のメンバーは皆、初めて。初見で錦秋のこのルートを登ったら、きっと感動すること間違いなしだろう！！

ようこそ、会越のワンダーランドへ！！では報告です。

■写真上 登山口に靴間をデポして出発。

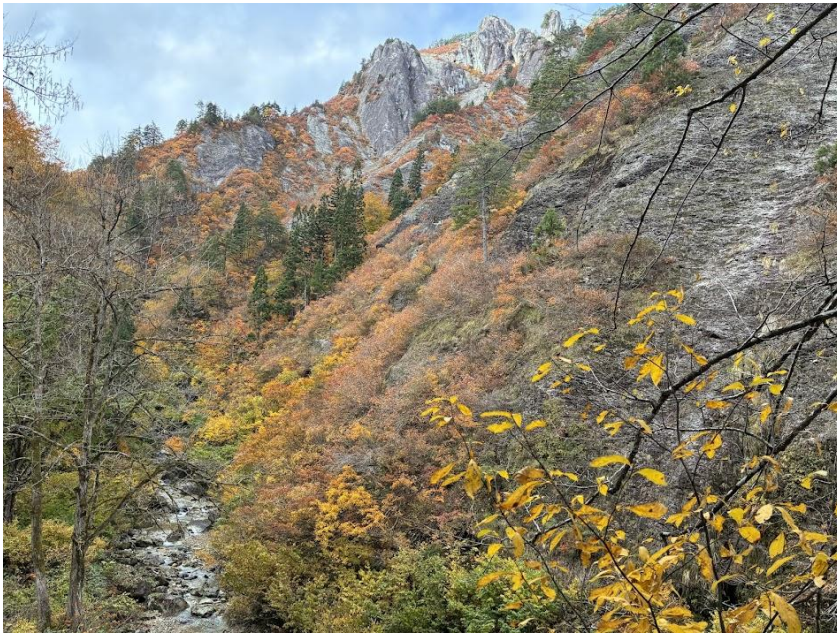
■写真中 鍬沢を右岸に渡渉する。

■写真下 雪国らしい根元の曲がったブナの紅葉は最盛期！！



前夜は「道の駅・西会津」で仮眠。すぐそばにコンビニがあり、朝食はそこで採って登山口へ。1 カ所キャンプ場のところが道を間違えやすく、川の右岸の道は間違い。左岸の道を行けば自然に登山口に導かれる。

昨日の雨がまだ残っていて天候は今一つすっきりしない。ホントに晴れるのか心配しながらも、予報を信じて登山口を 8:25 に



出発。10 分ほど歩いたところで鍬沢を右岸に渡るのだが、ここも少し迷いやすい。その後は右岸に付いている道を行くが、2019 年に来た時と比べ、かなり荒廃が進んでいるような気がする。道が崩れていて、まるで、沢登りの高巻きのようなことを余儀なくさせられる所もあり注意を要する。それでも徐々にスラブの岩峰が顔を出し、紅葉もいい感じ、天気も好転してきて一安心だ。

ところで、今年は熊の出没が相次ぎ、こういう山深い場所を歩くのはそれなりに気を使う。熊鈴やホイッスルで頻繁に自分たちの存在を示すが、以前はこのようなことはほとんどしなかった。今後、どのようになっていくのかはわからないが、特に今年の熊の出没の多さは異常である。

シジミ沢出合までは思ったより時間がかかり 2 時間 20 分を要した。2019 年と比べて 10 分程余計に時間がかかったが、最近、登山道がほとんど整備をしていないようで、そのうちに自然の姿に戻ってしまうかもしれない。



■写真上 見えてきたぞ!!

■写真中 緩いスラブをグイグイ登る!!

■写真下 テンションマックス!!



シジミ沢出合からはいよいよ本格的に高度を上げていく。すぐにスラブが現れ、ルーフアイに気を使いながら登る。ここも、2019 年にはもっと至る所にロープやクサリが設置されていたような気がするが、今回は、ロープやクサリも少なく、あってもとても信用できる代物ではないものが多かった。し



かし、この辺りは慎重に登れば問題はない程度なので、アトラクションを楽しむように登って行ける。

気づけば我々は錦絵と一体化して、素晴らしい錦秋の世界に迷い込んでいた。見上げれば燃えるような紅葉の上に聳え立つ花崗岩の岩峰群。振り返れば、足下にスゴイ高度感を感じながらも、白い岩に灌木の赤・ブナの黄・そして紅葉しない杉の緑が混ざり合い、まさしく1枚の絵のような世界を演出している。「2回目だから答えはわかっている・・・」と思っていたが、いやいや何回見てもこの景色は絶景！！感動ものである。

登るにつれ、スラブは露出度が増してくる。もはや「道」と呼べるようなものではなく、「プチバリ」といってもよいレベルで、自分で責任を持ってルーファイをできない人は来るべき場所ではない。

■写真上 見上げれば絶景。

■写真中 眼下も絶景！！

■写真下 高度感抜群！！



前回は、調子に乗って快適なスラブを直上して、いつの間にか傾斜が急になり戻ることが難しくなったため、「これ以上難しくなることがありませんように・・・」と念じながら恐々登って行ったところ、運よく行き詰まることなく、何とか登りきることができたのだが、必ずしもそうなるとは限らない。単に運が良かっただけ、ということかもしれない。

今回は、ちゃんと安全を確認しながらルーファイをすることにして、まず、近くにづ





ツシュがある場所を探しながら登ることにする。ブッシュに入ってしまうと藪が鬱陶しいので入らないが、いつでもブッシュをつかめるラインを捜しながら登る。おそらく、前回より右寄りのラインを登ったことになると思う。ブッシュが近くにあれば、いざという時にはロープも出せるし、セルフビレーもランニングも取れるので多少壁が立ってきても安心だ。

今回はルーフファイが巧くいき、それほど怖い思いをすることなく、ロープを使用することなく御前ヶ遊窟まで無理なく登ることができた。(前回もロープは使用しなかったが、支点が取れず、使用したいのにできなかったというのが本音である。)

最初に現れた遊窟は偽物で岩が崩れていて壊れかかっていた。少し左に歩いた場所にケルンが積まれた大きな遊窟が現れた。これが本物である。ここで大休止、ホッと一息。行動食や飲み物を口にする。

ここまでの道中、メンバー全員が紅葉の美しさに感嘆の声を上げ、あらゆる賛辞の声を送りながらスラブ登りを楽しみ、ホント幸せな時間であった。

■写真上 御前ヶ遊窟到着。

■写真中 御前ヶ遊窟直下。

■写真下 全山紅葉！！遠くに磐梯山の三角が浮かぶ。



さて、846m峰に向かおう。今回の最高峰は井戸小屋山の902mだが、井戸小屋山は景色にも恵まれずピークらしくもないので、クライマックスは846mの岩峰



である。遊窟から傾斜が急なスラブを左に回り込むように登るが、ここは念のためロープをフィックスする。難しくはないが万が一落ちたらケガでは済まない。1 ピッチ登ると尾根に上がり、ここからは尾根沿いにピークを目指す。846m峰は 360 度開けた高度感抜群のピークだ。磐梯山の三角も確認できて、今まで見えなかった新雪の飯豊連峰も見渡せる。周りはスッパリと切れ落ち、山頂に 1 本打たれたハーケンにセルフビレーを採って記念撮影！！



ここから井戸小屋山までの尾根も、まだ油断できない左右スッパリ切れた痩せ尾根が続くが、そこに広がるスラブ群と紅葉のコントラストはまた格別！！クサリの付いた急な尾根を登り詰めると今回の最高峰、井戸小屋山である。

さあ一下山である。ここからの下山も、前回と比べて藪が刈られていないところもあり荒廃している。前は「快適に降りた」と記録に書いてあったが、結構、不鮮明



で歩きにくい道となっていた。それでもまあ、それほど長くないのが救いである。意外と早く林道と合流し、さらに舗装された車道を辿れば、井戸小屋山から 1 時間 37 分で下山。

■写真上 846m峰山頂！！

■写真中 紅葉のスラブの奥には新雪の飯豊連峰！！

■写真下 井戸小屋山への急登！！

終わってみれば、長すぎず短すぎず、難し過ぎず易し過ぎずで、ちょうど我々が楽しめるレベルの山で、今日も良く笑い、景色に感動し良い 1 日だった。

これもメンバーあってこそ！！7 名もいたからか、最近話題になっている熊もそれほど怖く感じずに山を楽しめた。(一応、熊スプレーは2本持参した。)ご一緒したメンバーの皆さん、有難うございました！！今回行けなかった

「木地夜鷹山」もそのうちお付き合いをお願いします。

◆コースタイム

登山口(8:25)～(10:34)シジミ沢出合(10:40)～(12:25)御前ヶ遊窟(12:45)～(13:12)
846m峰(13:21)～(13:41)井戸小屋山(13:56)～(15:33)登山口